

ムギ類赤かび病情報第2号

令和3年4月30日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

今後の気象状況に注意しましょう

1 ムギ類赤かび病菌の生態

ムギ類赤かび病の第1次伝染源は麦わらや稲わら等の植物残さ上の越冬菌において、春に形成される子う胞子です。雨が降った後に子う胞子が多く飛散するため、降雨後は赤かび病菌に感染する可能性が高まります。また、第2次伝染は発病穂からの雨滴による流下や風による分生胞子の飛散で起こります。したがって、降雨後、早急に防除を行うことが大切です。

2 今後の気象状況と赤かび病の発生予測

開花期から乳熟期にかけて降雨が多く、気温が比較的高い(20~27℃)状態で経過すると急激にムギ類赤かび病の感染が拡大します。名古屋地方気象台4月29日発表の1か月予報によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みですが、今後の気象状況によっては注意が必要です。

3 防除対策

開花期における1回目の防除以降にはほ場で発病穂が認められ、降雨が予想される場合は、発病穂からの第2次伝染による被害を防止するため、乳熟期を目安に防除が必要になります。2回目の防除を実施する場合は、下表を参考に1回目の防除とはFRACコードの異なる薬剤を地域の実情に応じて選びましょう。

表 ムギ類赤かび病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	ベルコート水和剤	収穫21日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	散布	M7
	トップジンM水和剤	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	散布	1
	トップジンMゾル				
	ベフラン液剤12.5	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)	散布	M7
	ベフラン液剤25				
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	3
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
トリフミン乳剤	収穫3日前まで	3回以内	散布	3	
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	散布	3
大麦	チルト乳剤25	収穫21日前まで	1回	散布	3
	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	散布	3
無人航空機用					
作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	トップジンMゾル	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	無人航空機による散布	1
	チルト乳剤25	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	3
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3
大麦	チルト乳剤25	収穫21日前まで	1回	無人航空機による散布	3
	シルバキュアフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	無人航空機による散布	3

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01_2021.pdfを参照する。
薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。